

深南部 矢筈尾根から黒沢山（50周年記念山行）

2015年10月4日(日)

メンバー：池田T

矢筈尾根を登って黒沢山を往復した。矢筈の頭から黒沢山の間は腰の高さぐらいの笹藪がずっと続き、途中で引き返そうかと思ったぐらいだ。特に黒沢山の南斜面は広大な笹の原が延々と続き、さらに登りなので笹が頭上を超える場合もあり、非常に疲れた。ただし復路の下りでは笹藪を上から見渡すことが出来るので、トレール(獣道?)をうまく見つけて利用し、景色を楽しむ余裕も出てきた。ヒルやダニの被害は無くて良かった。

10/4(日) 晴れ

真っ暗な中、ヘッドランプを点けて戸中のゲート前から出発。見込み通りの時間で矢筈尾根の末端についたが、暗くて登り口が分かりにくいので少し行き過ぎてしまった。小さな標識が木からぶら下がっているが、高い位置に着いているので全く見えなかった。尾根に上がってしまえば踏み跡がヘッドランプで分かるが、左右に広がってくると不明瞭になり、急な斜面を上に向かって適当に登って行った。



急な登りの途中にある数少ない標識。（撮影は帰路）

矢筈尾根の平坦部は相変わらず広くて歩き易く、ブナもあって癒される場所である。ただ、4年前に比べると倒木が増えていた。



立派なブナの木



こちらは倒れたブナの木。根の張り方が浅い気がする。

尾根地形が明瞭になると踏み跡も明瞭になってくる。やがて矢筈の頭に着くが、特に標識は無い。



矢筈の頭から北に延びる尾根。とりあえず踏み跡はある。

トレールがあったのは最初だけ。尾根が広くなってくると笹の原になって踏み跡は不明瞭になってくる。笹

に隠れた倒木が多く、脛をぶつけまいと足を上げるので疲れる。



1995mピークの南側。がむしゃらに登る。

特に疲れたのが1814mピークと1995mピークへの登り。よく探せば笹の中に踏み跡はあるのだが、笹原を見上げる状態では良く分からず、笹を掴んでがむしゃらに直登した。



1995mピークの西側。このような歩き易い所は少ない。

急な斜面を下り終えると尾根が再び広くなって笹の原に。いつの間にか尾根から外れて踏み跡を見失うが、笹をかき分けて斜面を登って復帰する。黒沢山南面は広大な笹の原で絶望的な気持ちになった。しかしここであきらめるわけにはいかず、笹をかき分けてがむしゃらに登っていく。



黒沢山南側の斜面。1901m地点付近から。

傾斜が緩くなってくると踏み跡がはっきりしてきて多少は楽になってくる。
黒沢山の山頂にたどり着くと何とそこには先客がいた。奈良代山から登ってきたという60代とみられる単独男性で、山頂の記念写真をお互いに撮りあった。



あまり展望がない地味な山頂。

小休止の後、往路のルートを引き返す。隠れた倒木に注意しながら下って行く。行きでは分からなかったトレール（獣道？）も高い視点から見ると何となく分かる。

矢筈の頭に戻って、六呂場山方面に少し入るが、消耗した体力では六呂場峠からの登り返しがキツそうだったのと 古橋さんが翌週に六呂場山経由で鹿ノ平に行くと言っていたのを思い出し、無理せずに彼に託すことにした。

<タイム>

戸中ゲート4:20－矢筈尾根取り付き5:00－尾根平坦部6:05－矢筈ノ頭7:10－黒沢山9:35～9:45－矢筈ノ頭12:05－尾根取り付き14:00－ゲート14:35
登り5h15m、下り4h45m



以上